日本行動計量学会会報

第2号
1974年4月10日

日本行動計量学会
事務局
東京都文京区本郷7－3－1
東京大学医学部保健
学科疫学教室内

真の学際研究をめざすために

山本俊一

日本行動計量学会は発足以来順調な経過をたどって会員数は漸増しており、また、その事業活動としては、本年になってからも一月二十六日に第一回月例会が開催されたが、これで本学会の重要な活動の一つである月例会も軌道に乗ったとみてよいであろう。さらに英文および和文雑誌の編集が進捗しており、それぞれ第一巻が発刊されるのも時間の問題となっているし、また、講習会の準備も着々進行中である。このように全部が予定通りに進行しているのは、言うまでもなく、理事長ならびに事務局の方々のなみなみならぬ尽力のお蔭であって、私も一会員として深く感謝している。

しかしながら、何と言っても、この学会は発足後半年そこそこにしかならず、全体としての安定性を得るには、まだまだ時間がかかるであろうことは言うまでもない。このような時期にある学会としての最大の問題点は、会員同志が十分な相互理解を得る段階に達せずお互いに遠慮し合ったり、あるいは警戒し合ったりして、未だ結びつきが充分に強くないことにあるのではないだろうか。

そもそもどんな学会でも、会員間で競争意識をお互いに持ち合い自分が他より劣っているのではないかということが、どうしても一つの大きな関心事になっていることは否定できず、また、分野として専門化されていればいる程この傾向が強いようである。

ところが、本学会は、数多くの学問分野の寄り合い世帯の、いわゆる学際的な性格が極めて強いのであるから、そのような雰囲気がないはずであるが、しかし、本学会の中核となる高度の数学、統計学の専門家たちに対して、私ども周辺分野にあるものは、どうしても意識的に、あるいは無意識的に劣等感をもって、自分の無能力を、できるならば披露したくないという気持ちになり勝ちであることは、どうしても否めない。

私の専門は医学の中の疫学であるが、これは専門であって専門でない学問分野であって、常に臨床医学、基礎医学その他の高度に専門化した方たちの中で素人のまとめ役として協同作業をしている。このような形態で長期研究活動をやっていると、前記のような劣等感とか、その裏返しの優越感は全く無駄であるばかりでなく、むしろ研究の邪魔になるということがしみじみとよく分かってくる。

本学会でも私は高度の専門家たちの間で、ものおじをせず、何でも教わる積りでいるが、この処世方針のお蔭で、この短期間に多くの収獲があったように思う。

会員の方の中にも、私のような立場の方が多いであろうし、また、私たちの周囲には、このような危惧の故に入会を躊躇しておられる方も少なくないと思うので、事務局のお勧めもあったので、あえてこの駄文を書いた。これがいささかでも、本学会の発展のお役に立てば、望外の幸せである。（日本行動計量学会理事　東大医学部）

会費納入のお知らせ

日本行動計量学会も発足後二年目を迎えましたので、会則により本年度の会費（正会員二千円・準会員千円）を四月末日までに事務局あて御納入下さい。会費納入には同封の振替用紙（振替番号　東京一四八〇五六）を御利用下さい。なお、会則により長期間会費を納入しない場合には、学会を退会したものとみなします。

会議議事録要旨

◇**第四回編集委員会**（十二月十七日）　於　慶応義塾大学
出席者・編集委員十四名
主要決定事項

1. 欧文誌の創刊号発行は七十四年十月とし、掲載論文原稿の締め切りは二月末日とする。欧文誌の販布出版先を（株）日本出版貿易とすることを了承。
2. 和文誌創刊号の発行は七十四年四月とし、論文の締め切りは一月二十日とする。和文誌の出版は学会による自費出版とする。和文誌創刊号には研究論文の他に「行動計量学の課題」という特集を組み六人の依頼執筆者を決定承認。
3. 会報は事務局編集委員が編集し、第一号を十二月二十五日に発行する。

◇**第五回編集委員会**（一月二十五日）　於　統計数理研究所
出席者・編集委員十四名
主要決定事項

1. 和文誌は当分の間、年二回発行する。
2. 和文誌創刊号に締め切りまでに七篇の論文が集まったことが報告される。これらの論文に対して二人づつのレフリーをつける。審査係の論文の取り扱いについては和文誌編集幹事に一任する。

◇**第四回運営委員会**（二月十八日）　於　東大医学部
出席者・運営委員十一名
主要決定事項

1. 本年度大会実行委員長を林理事長に依頼し、大会実行委員会を実行小委員会と事務局のメンバーによって構成する。
2. 和文誌創刊号に行動計量学に関連する雑誌リストを掲載する。
3. 研究サブグループを結成することを決議承認し、各委員にサブグループの発起人依頼の案内を出す。
4. 「行動計量学シリーズ」発行についての準備検討のために編集準備委員会を結成する。

◇**第五回運営委員会**（四月一日）　於　統計数理研究所
出席者・運営委員八名
主要決定事項

1. 第二回月例会を四月二十日（土）に因子分析法をテーマに開催することを承認。今後、六月に工学関係、十月に医学関係、十二月に行動計量学の教育について計画を進めることを了承。
2. 多変量解析法に関する講習会を五月九日（木）から十一日（土）までの三日間、日本電機工業会講堂（永田町）で行なうことを承認。
3. 学会大会は九月二日（月）から五日（木）まで四日間、統計数理研究所で行なうことを承認。内容は以下のようなものにすることが了承された。
   (a) 特別講演二件
   人間の適応能力（仮題・講演者未定）
   時系列関係（題未定・講演者藤井光昭氏）
   (b) 昨年のパネルディスカッションと同形式のシンポジウム
   (c) 一般講演
   共通テーマ
   社会意識の数量化・人間評価の計量化・パターン認識・計量的エコロジー
   一般テーマ
   ※ 方法論に重点をおくものと内容的な面に重点をおくものとに分ける。
4. 研究サブグループ結成のよびかけがいくつかあり（詳細は三面）、それらを承認した。
5. 情報収集小委員会から行動計量学に関連する欧文雑誌リストを和文誌創刊号に掲載した旨報告があり了承された。

名簿完成さる

日本行動計量学会会員名簿が完成しました。現在、正会員四二〇名、準会員六七名、計四八七名で五〇〇名にもう一歩といったところです。賛助会員も増えて二五社となりました。これを土台によりよい名簿にしていこうと思います。

新会員募集のお知らせ

新会員を募集いたしますので、お近くに本学会に加入されたい方がいらっしゃいましたらその旨葉書きで事務局宛御連絡下さい。申し込み用紙と振替用紙を御送りいたします。（必要枚数を明記のこと）

◇第六回編集委員会（四月五日）於 統計数理研究所
出席者・編集委員十三名
主要決定事項

1. 欧文誌創刊号に七篇の論文が集まったことが報告され、依頼論文に対しては一名、一般応募論文に対しては二名のレフリーをつけることが承認された。

会員の声募集 ふるって事務局宛お寄せ下さい。

研究サブグループ結成のよびかけ

日本行動計量学会運営委員会では、学会内にいくつかの研究サブグループを作って研究連絡・共同研究の便宜をはかるべく当学会各委員に発起人依頼の案内を出しておりましたが、このたび以下のような十一の研究会結成のよびかけがありましたのでお知らせいたします。

会員で参加希望の方は、希望研究会名と御自分の連絡先を明記して事務局宛お申し込み下さい。追って発起人の方から案内・連絡をいたします。（直接発起人宛申し込まれても結構です。）

①研究会の名称②発起人氏名（所属）③内容、参加者への希望など④第一回開催日時⑤第一回開催場所

1. ①健康の計量化
②山本幹夫（帝京大医）
③健康問題および計量化に関心があること。
④昭和四十九年四月二十七日（土）午後二時から五時まで。
⑤帝京大学医学部公衆衛生学教室（国電十条駅下車）

2. ①計量分析談話会
②水野欽司（名大教育）高橋丈司（愛知教育大）
③テーマは特に限定なし。統計学の基礎的知識、行動計量に対する関心のある人なら誰でもよい。昨年十二月以来すでに三回の会合がもたれており、心理学、医学関係者からの研究紹介をかねた発表が六件あった。
④昭和四十九年五月十一日（土）午後二時
⑤名古屋大学教育学部教育心理学教室

3. ①社会調査データにもとづく社会変動の分析
②鈴木達三（統数研）
③データ解析の手法、行動計量学におけるデータ収集の諸問題、データバンク作成の問題に関心のある人。
④昭和四十九年五月二十日（月）
⑤統計数理研究所

4. ①健康指標と医療評価
②井上通敏（阪大医）
③医学関係者以外の方にも参加していただきたい。
④昭和四十九年五月下旬予定。
⑤大阪大学保健管理センター予定。

5. ①計量診断研究会（仮称）
②木村栄一（日医大）
できたら若い人にお願いしたい。
③ＭＥ学会の「計量診断」ないし「医学情報処理」研究会（会長予定古川俊之氏－阪大医・日本行動計量学会会員）と共同で会合をもつ予定。
④⑤未定

6. ①社会・政治データバンク
②三宅一郎（京大人文科学研）
③参加者への希望（必要な基礎知識など）はとくにない。
④⑤未定

7. ①情報理論と統計数理
②佐藤創（上智大理工）
③フィッシャー、シャノン、カルバック等の情報量を吟味しつつそれをのりこえる現象解析のための新しい情報量の考察等を行なう。
④昭和四十九年四月下旬以降
⑤上智大学数学教室予定

8. ①データの変動と多次元解析
②岩坪秀一・星守（電総研）予定
③データの分布論（正規分布以外のものに重点を置く）、感度分析、類似性測度とクラスタの数との関係等の考察を行なう。
④昭和四十九年五月以降
⑤電子技術総合研究所予定

9. ①多変量解析に関する新しい手法の開発
②柳井晴夫（東大医）
③多変量解析に関する各種の技法を記述的な観点から整理し、新しい分類手法を開発する。

④五月中旬
⑤東大医学部

10.
①決定理論
②松原望（統数研）
③従来の統計的決定理論にあきたらない人でそれを人間行動の数理的決定の方向へ拡大していくことに興味をもっている人。交流を通じて問題提起をし確定的フォーミュレイトにまでもっていく。
④⑤未定

11.
①人間評価
②梶田叡一（国立教育研）予定
③教育場面における生徒の評価を含めて企業における人事評価等の問題を総合的に研究する。
④未定
⑤国立教育研究所予定

研究サブグループは計画中、予定のものを含めてすべて掲載させていただきました。地方で開催されることを考慮に入れて似たテーマのものも列挙してあります。今後研究グループ間の連絡や、研究会に参集した方達の討論活動を通じて各グループが発展していくことを願ってやみません。なお将来、新たな研究グループがどんどん生まれ、実質的な共同研究が行なわれることを期待いたしたいと思います。一般会員諸氏の研究会結成も歓迎いたします。研究会への積極的参加をよびかけます。

学会誌編集委員から

学会誌（和文誌）創刊近づく

第一号の会報でお知らせしましたように、学会誌（和文誌）の創刊号が五月下旬に発刊のはこびとなりました。創刊号には、特集「行動計量学の課題」に対する六篇の依頼原稿、四篇の原著論文、一篇の展望、それに行動計量学に関係のある欧文雑誌リストが掲載されています。

欧文誌も原稿応募盛況

欧文誌刊行の準備も着々と進んでいます。依頼原稿と原著論文を合わせて七篇の論文が集まり欧文誌編集幹事会も嬉しい悲鳴を上げています。九月刊行予定。

和文誌第二号原稿募集のお知らせ

和文誌第二号は十月頃発行の予定で、原稿締め切りは六月中旬です。ふるって原稿をお寄せ下さい。応募される方には執筆要項と原稿用紙をお送りしますので、その旨事務局宛御連絡下さい。

欧文誌二号原稿応募期限十月

研究会だより

計量分析談話会 名古屋

研究サブグループ結成の記事にもある通り、名古屋大学の水野欽司氏を中心として昨年十二月から名古屋に「計量分析談話会」が発足。隔月開催を原則として本学会会員を主体に毎回約二十名が参加し、回を重ねるたびに盛況を呈してくるとのこと。行動計量学会の地方部会を目指して関係者は張り切っている。これまでの研究会での発表題目は以下の通り。

第一回（昭和四十八年十二月八日）
「判別分析法による口腔習癖要因の検討」千野直仁
（愛知学院大・文）
「連関表（contingency table）のクラスター化」水野欽司（名大・教育）
第二回（昭和四十九年二月二日）
「疾病発生の地域・時間集積の検討について」大谷元彦
（愛知県ガンセンター）
「多変量解析とコンピュータのプログラミング」岩脇三良
（中京大・文）
第三回（昭和四十九年四月五日）
「多次元尺度構成法による視的類似印象次元の分析」内田敏夫
（名大・教育）
「Multiple Scalogram Analysis の態度測定への適用について」水野欽司
（名大・教育）

次回は五月十一日（土）午後二時より名大教育学部教育心理学教室にて開催。

――編集後記――

花冷えに草木も春の兆に誘われて花をつけたのを悔いたかに見えたが春爛漫もまぢかである◆学会も二年目を迎え芽生えから開花への息吹きが感じられる今日この頃である◆多忙な毎日を何とか乗り切ってこれたのも事務局五人のチームワークと皆様の温かい御支援の賜物だと思う。今後とも御鞭撻を衷心からお願いしたい。（岩坪記）